

西根

旧西根町の町花で絶滅危惧種ムラサキの増殖を研究する盛岡農高生物工学科のムラサキ保護研究班は5月6、7の両日、道の駅にしね生産物直売所で、伝統工芸の南部紫根染作品を展示、即売しました。作品はハンカチやスカーフなど小物類。盛岡市の染色家藤田繁樹さんの指導を受けて生徒が製作しました。研究班の鈴木里菜さん（3年、大更）は「地元西根のムラサキの魅力を学べた」と話しました。



紫根染の小物を販売する盛岡農高ムラサキ保護研究班



上坊牧野でのんびりと過ごす牛たち

畜産農家の効率的な経営と労働時間の軽減を目的にした、牛の放牧事業は5月9日、上坊牧野で始まりました。初日は、青空が広がる天気。に恵まれ、牛たちが運ぶトラックが次々と到着。この日、33戸から208頭の乳牛が入牧しました。牛たちは、体重測定の後、きれいに体を洗ってもらってから、広々とした大地に放されました。今後、牛たちは10月ごろまで青草をはみながら、のんびり過ごします。

ムラサキ研究の成果を伝統工芸で発表

医療や看護に理解を深めてもらおうと西根病院は5月10日、高校生を対象にふれあい看護体験を実施しました。これは、ナイチンゲールの誕生日に当たる5月12日が看護の日と定められていることを記念して行われています。看護体験には平館高12人、盛岡南高1人、いずれも市内に住む13人が参加しました。参加者は、看護師、栄養士、理学療法士など、医療や介護に携わる仕事の希望者。同院の

未来のナイチンゲールが看護実習に奮闘

塚富貴恵看護師長の指導の下、病院で働く人の仕事や看護の在り方などを学びました。生徒たちは、病棟に移動して、看護実習も体験。白衣に身を包み、患者の手や足を洗ったり、髪をとかしたりしながら、会話を弾ませました。看護体験に参加した泡淵静香さん（平館高3年、平館）は「家でも大好きなおばあちゃん、の肩もみなどをしていきます。将来は介護福祉士になりたい」と、決意を新たにしました。



ふれあい看護体験に参加した高校生は、患者と会話を弾ませながら、手や足を洗ったり髪をとかししました

緑のじゅうたんの上で牛たちはのんびり

八幡平市

エナテック㈱が市第1号工場立地に調印

八幡平市が誕生して初の工場立地として、深夜電力利用床暖房システム製造のエナテック株式会社（高橋充代表取締役、本社山形県山形市、資本金1千万円）が、平笠地区に立地することとなり、5月1日、市役所3階会議室で工場立地協定書の調印式が行われました。

調印式では、斎藤淳夫県企業立地推進課総括課長の立ち会いの下、高橋充代表取締役と田村正彦市長が協定書に調



協定書を交わり握手する高橋充代表取締役（写真左）、斎藤淳夫県企業立地推進課総括課長（写真中央）、田村市長



協定書に調印する田村市長と高橋充代表取締役

印。田村市長が、「この地で業績を上げて、本市の雇用創出に、つなげてもらえることを期待します」と歓迎のあいさつをしました。

エナテック株式会社は、平成12年に設立。低温水パネル暖房・給湯システム（ウエルエコシステム）、電気蓄熱床下暖房システムの設計、製造、販売などを手掛けています。本市の工場は、組み立て工場と配送センターの機能をもつ東北支店として設置し、本県をはじめ、北東北3県への製品供給の拠点と位置づけるものです。6月から第1期工場による操業を開始し、平成19年4月までに3棟の工場を完成させる予定です。

クリーン作戦できれいなまちづくりを

「八幡平市クリーン作戦」が4月29日早朝、市内全域で行われました。

この活動は、地域ぐるみの一斉清掃を通じてきれいな八幡平市をつくろうと実施しているものです。当日は市内各所でたくさんの方が協力して道路とその周辺などのごみ拾いに励む姿が見られました。道路沿いのポイ捨てごみが多く目に付きました。みんなでルールを守り、きれいなまちをつくっていきましょう。



大更駅前地区では自転車などのごみも集められました

明るい地域へ、東北電力が街路灯を寄贈



田村市長に目録を贈る渡辺所長（左）と阿部所長（中央）

東北電力株式会社盛岡営業所（渡辺泰宏所長と株式会社ユアテック盛岡営業所（阿部正徳所長）は5月10日、市に街路灯10灯を寄贈しました。当日は、渡辺、阿部両所長が「明るいまちづくりに役立ててほしい」と述べ、田村正彦市長に街路灯10灯と取り付け工事一式の目録を手渡しました。両営業所の本市に対する街路灯寄贈は旧3町村から行われ、これまで340灯の街路灯が寄贈されています。

安代



田山地区の地域防災活動の拠点施設として活用されます

35分団コミュニティー消防センターが完成

安代地区田山の市消防団35分団コミュニティー消防センターが完成し、5月13日に落成式が行われました。落成式には関係者約70人が出席。完成を祝い、神事が行われました。田村正彦市長はこの施設を拠点に、連携を深めながら、地域防災に尽力してほしい」と期待を込めました。この施設は、建物建築費約1880万円、延べ床面積約122平方メートルで、消防詰所や集会施設として活用されます。



出場した選手たちは、自己ベストの更新を目指して、最後まで全力で駆け抜けました

子どもたちが安心してスポーツに取り組める環境をつくろうと、ジュニアスポーツ指導者講習会が5月14、18の両日、安代若者センターで行われました。講師は、日本体育協会公認の高橋一男さんと、全米アスレチックトレーナー協会公認の狩野桂子さん。講習会では、成長期の子どもの身体機能について講話を受けたほか、けが予防法や外傷の応急措置なども実技を交えて学びました。



子どもの成長曲線に合わせた指導方法を学びました

子どもたちにスポーツを安全に学ばせたい

安代地区民の健康増進と親ばくを図ろうと、第36回市安代地区健康マラソン大会兼第18回親子マラソン大会は5月14日、安代若者センターを発着点に行われました。コースは、学年や年齢に合わせて2、3、5キロの部門を設定。当日は、あいにくの小雨模様でしたが、95人と11組の親子がマラソンやウォーキングに出場しました。開会式では、田山小2年の

工藤楓悠君が「最後まで全力で走ります」と元氣よく選手宣誓。けがを防止しようと、全員で準備体操を行いました。午前9時、いよいよ2キロ部門から競技が始まりました。出場者は、号砲とともに勢いよくスタート。新緑に囲まれたコースで、自己ベストを更新しようとして健脚を競ったり、景色と澄んだ空気を楽しんだりしながら、ウォーキングで心地よい汗を流しました。

新緑の中、安代健康マラソンの号砲が響く

松尾

学習院八幡平校舎が閉鎖。跡地は公園化へ

学校法人学習院は、松尾地区緑が丘にある学習院八幡平校舎を閉鎖することとした。同校舎は学習院の校外学習施設として、学生や生徒が宿泊し、課外学習やスキー体験の拠点として利用されてきました。同校舎は、昭和46年に旧松尾村が学習院に無償で譲渡。約11畝の敷地は学習院が民間から購入しました。建物譲渡の協定で、学習院が建物の使用を終えた場合は、建物を旧松尾村に返還することになっていました。市は、学習院が同校舎建物を



学習院八幡平校舎に到着された皇太子さま（今上天皇）と浩宮さま（皇太子さま）【昭和63年2月26日撮影】

を解体した上で、土地の譲渡を受け、活用を検討しています。5月9日に開かれた第1回市議会臨時会では、建物の返還を受ける権利を放棄する議案が提案され、承認されました。同校舎は、学習院で学ばれた皇太子さまが訪問されるなど、皇室とゆかりが深い施設。市と学習院は、同校舎を閉鎖した後、建物や敷地が荒廃することを懸念していました。市では、この由緒ある場所を記念公園とする方向で検討し、学習院では記念碑を設置する考えです。



閉鎖が決まった学習院八幡平校舎

観光も茶道も、おもてなしの心が秘けつ

美しい景色を眺めながら、本格的なお茶を楽しんでもらおうと、森林ふれあい学習館は5月13、14の両日、お茶会を開きました。お茶会は1年に2回、八幡平が一番美しい春と秋に野外で開催。今回は、小雨のため同施設内に茶室を開設し行われました。お茶をたてたのは、裏千家「開社中」の女性4人。和のもてなしを受けた参加者は、ゆつくりとした時間を、満喫しました。



訪れた人たちは和のもてなしで心を和ませました

いわて観光の日を記念して講演会を開催



テレビ中継を例に挙げ、観光振興策を提案する平井アナ

八幡平地域の国立公園指定50周年を記念して、助県観光協会は5月16日、いわて観光の日記念講演会を八幡平ロイヤルホテルで開きました。同協会は毎年この日を、いわて観光の日と定め、県民が一丸となつて岩手の観光を推進しようとするものです。講師を務めた、テレビ岩手アナウンサーの平井直子さんは「観光資源をいろいろな角度から見詰め、魅力を伝えることが大切です」と話しました。